

八月の俳句

(2020年8月)



目次

たべもの俳句	モロク俳句	歳時記俳句
10	6	1
）	）	）

< 葉月 >

盛夏，残暑，晩夏，秋暑，初秋，立秋，新涼，残炎，葉月，土用

(宇佐美保幸)メール・zeirisi777usami@aol.com

毎日の俳句は次のブログに
巢鴨とげぬき徒然俳句
<https://blog-haiku.777usami.com>

八月の空はダム湖に落ちてゐる
八月のしずかな朝のトイレかな

SHは最後まで読み熱帯夜

独り寝の海に溺れる熱帯夜

熱帯夜両手両足過去未来

熱帯夜脳は勝手に未来かな

深い業ハダカユリともナツズイセン
今朝の花天の恵みの夏の露

朝顔の生物時計虫媒花

朝顔はしほみ市民は漂流す

朝顔のどこか濡れたる花弁かな

水やりに白朝顔がよろこんで

朝顔は誰の笑顔か咲きにけり



異様なり蓮口数多空に吠え

立秋にゲリラ雷雨の洗札を

新鮮な心に帰る今朝の秋

食べ過ぎを妻に叱られ秋が来て

鉢植えのどの木も静か今朝の秋

強き日をあえて選んで夾竹桃

暑さなど無縁のごとく鹿の子百合

段々と余命少なく終戦日

遠花火巢鴨にて見る隅田川

宇宙から眺める地球遠花火

ベゴニアの紅白咲き分けプランター

嘘つきは人の証と晩夏光



ビオトープとんぼが生まれ蚊も生まれ
幸せに冷房付けて終戦日
木槿咲きそして落ちけり終戦日
けさ秋の白き木槿が庭に咲き

サンパラソル秋まだ暑くベランダに
銭湯に刺青男居て夏の月
丸顔を眺めてうれし夏の月

おもかげの薄紅ひろく芙蓉かな
白花の紅葉葵はきれぎれて

流れ星言葉が足りず喧嘩して
吾の腰自分で叩き流れ星
日日草平凡非凡生き抜いて

百日紅ドライブフラワー工夫して
さるすべりがまんがまんの夏終わる



東京に時に一面星迎え
東京に時に夕焼け小焼けかな
落つる音吾に聞こえず桐一葉

シャワー浴びオンザロックで暑気払い
要するにお酒を飲んで暑気払い
勘違いああ勘違い暑気払い

蝉の鳴く一瞬止んで不安感
蝉の骸あちこち落ちて人生を
カナカナカひぐらし鳴いて杉真直ぐ

辛辣な世の中となり赤のまま
そのままを許せぬ人も赤のまま
雨に濡れ一段赤き狐花

揺れあうて何をささやく女郎花



二三輪程よく活けた女郎花

よしなごと一つ二つの桔梗かな
端然と咲きてりりしく白桔梗
桔梗にも白花ありて絶滅種



モーロク俳句

八月に見る夢こそはモーロクす
八月の自由不自由モーロクす
八月は線香花火モーロクし

モーロクし自堕落もよし夏旺ん
モーロクし常識捨てるごとく夏
モーロクし真夏の夜のひとりごと

モーロクし膝がぐらぐら酷暑かな
モーロクし燃えることなく炎暑かな
炎昼や息せき切ってモーロクす
炎天が脳天破壊モーロクし

熱帯夜無性に殺意モーロクや



空蟬のごとくモーロク夢を見る
空蟬やモーロクすれば眠くなる
モーロクし未練の底の空蟬や

モーロクも今日から明日へシャワー浴び
モーロクし空の重さよ蟬時雨

モーロクし膝がぐらぐら暑さかな
モーロクし底力発揮暑に耐える
モーロクし段々遠く原爆忌

モーロクし夢はまぼろし今朝の秋
モーロクしつまらぬものにけさの秋

夏逝くやモーロクじじい海賊船
秋暑しモーロクすればただ籠り
モーロクし西瓜の縞を数えけり



敗戦忌遠く昔とモロクし
モロクしされど吾こそ生身魂
モロクしされど健啖生身魂
生身魂後期高齢酒を酌む

モロクし悔恨に似て桃の痣
モロクし桃の産毛を撫でてみる

モロクしそのひぐらしの声さびし
モロクし誰も笑わず蝸や

独り酌むモロクすれど月涼し
モロクし子供の瞳夏の月

モロクし狂う時計の夏落葉
モロクし逆恨みして芙蓉かな
モロクし反骨無駄に紅芙蓉



木槿咲くあすがあしたでモーロクし
モーロクし今日をたたみて木槿散る

モーロクし不安にまみれ鉦叩
モーロクし死を考へて放屁虫

椿の実はじけて我はモーロクし
モーロクしこれから長い蓼の花
モーロクし纏れし時間藪枯らし

モーロクしひとりを好み弟切草
流れ星言葉たらずにモーロクす
モーロクし無名であれど桐一葉

モーロクし籠もったままで八月尽
モーロクし籠もる八月終わりけり



たべもの俳句

八朔や丸々太った稻荷寿司
炎暑にも蒙古タンメン激辛で
羊串（ヤンチュアン）で
がつりがつり暑気払い

コーヒーゼリーやはりのほろ苦さ
コーヒーゼリー紫煙の中の記憶かな
ワインゼリー爽やかミント彩りに

ゴーヤーはぶくぶく太り平和かな
夏大根おろしてしらす朝ご飯

ポテトチップご当地味で夏休み
ラーメンを利尻で食べる夏休み



立秋や朝から煮豚コトコトと
今朝の秋いつもと同じ卵かけ
秋立つやラーメン屋にも新メニユー
唐揚げをノンフライヤーで秋に入る
味噌汁に地球引力秋に入る

山盛りの青じそ絡むパスタかな
ピーマンの牛肉炒め夏バテに
夏バテにねばねつとりのねぎとろ井
夏バテに負けじとばかりニラレバを
夏バテに卵ご飯の朝食を

西瓜には利尿作用も熱中症
西瓜食べ皮は漬物昭和人
一振りの塩振りかけて西瓜かな
西瓜食う種を植え付け腹の中
贈り物やはり西瓜は重すぎて



西瓜など月の兎に届けたい

酷暑日は麻婆豆腐もレンジかな
しょうが焼き添えて今夜は冷やうどん
こうなれば破れかぶりの蝮酒
豚しゃぶにニラだれかけて夏ご飯

なにごともなくそれだけの氷水
梅干やときに刺激も朝ご飯
ラーメンに星降る夜の屋台かな

赤まんま刺激を受けてお赤飯
桃食べて産地確認を入れ
白桃が岡山の香を届けけり

懐かしき味にピーマンきんぴらに
肉厚の子供ピーマン苦みなく



台所床に冬瓜鎮座する
バツタ飛ぶカップラーメン 晩ご飯
残暑かな塩で炒めて砂肝を
新涼や厚くふわふわ卵焼き

オクラ茹で鰹節のせネバネバ丼
ぶっかけにオクラ納豆夏バテに
和え麺やネバネバオクラたつぷりと
ネバネバのオクラで作るカレーかな
肉を巻きオクラをソテー大人味
プチプチと口にはじける生オクラ

ぶつぶつは大仏様かゴージャかな
枝豆とキノコのマリネ秋が来て
枝豆の塩を選べる日本かな

残暑なり冷やし茶漬けでさっぱりと
虫の夜はほんの少しの赤ワイン



